

所沢市立教育センター「所報」



所沢市の教育の理念

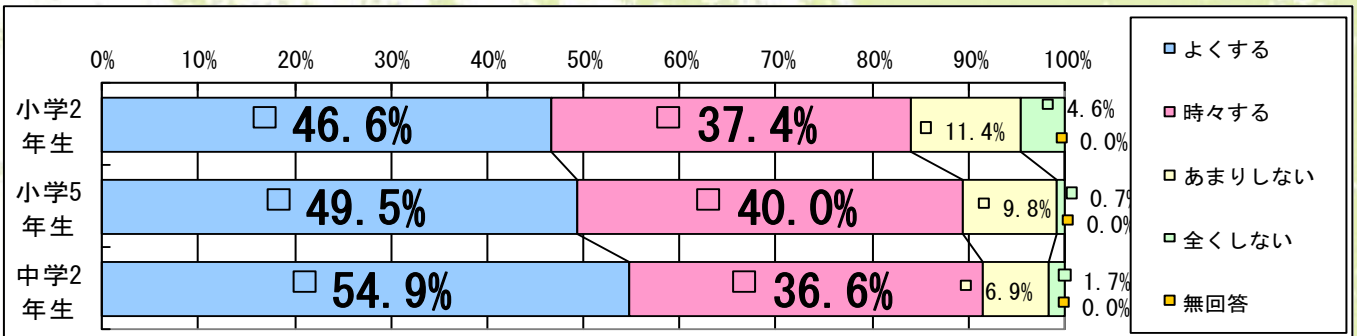
みんなが持っている三つの「宝」を
 掘り起こして大きく育てます
 心身のたくましさ
 未来を拓く知恵
 ふるさと所沢を愛する心

授業が変わり、学校を変えて、子どもを伸ばそう

所沢市小中学校児童生徒継続実態調査の結果より

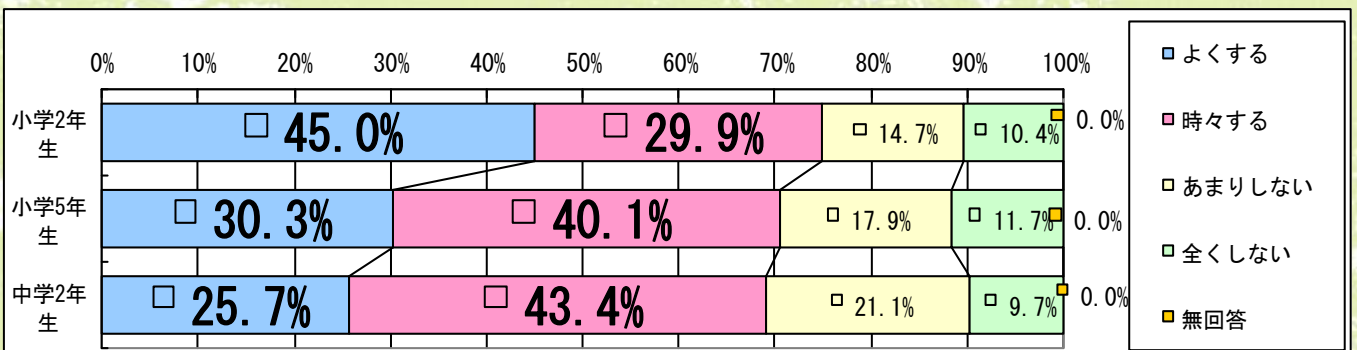
IV-(1) 近所の大人にあいさつをしますか。

今年度の「小中学校児童生徒継続実態調査」から、地域との関わりに関する結果を紹介します。



学年が上がるにつれ「よくする」の割合は上昇しています。中学2年生では、調査開始以来10年目にしてはじめて、「よくする」の割合が50%を超えました。

IV-(2) 地域の活動に参加しますか。



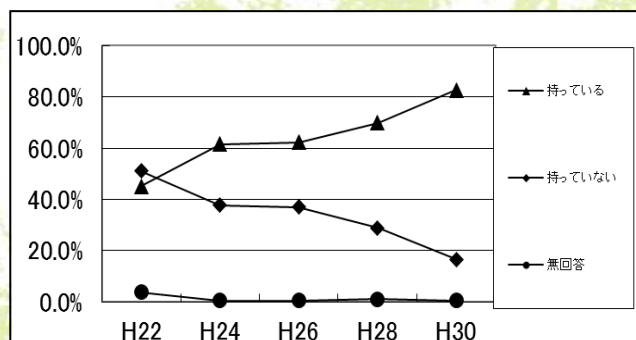
こちらの質問項目について、「よくする」の割合は決して高い数値ではありませんが、**小学校2年生と中学校2年生ともに、年々増加**しています。

上記2つどちらの質問項目とも、学び創造アクティブプラン学力向上推進事業における、「地域」の項目における『あいさつ』から関係をつくり、『地域行事』の積極的活用』の指針に沿って、学校、家庭、地域が総がかりで取り組んできた、**確実な成果**といえます。

市内で学ぶ約2万5千人の子供たちが「たくましく生き抜く力」を身に付けていけるように、**学校、家庭、地域が一体となり、様々なアプローチで取組を推進**していきたいものです。



VII-(3) 自分の携帯電話（キッズ携帯やスマートフォンを含む）を持っていますか。（中学2年生）



選択項目	H22	H24	H26	H28	H30
持っている	45.2%	61.6%	62.4%	69.9%	82.8%
持っていない	51.1%	37.9%	37.0%	28.9%	16.7%
無回答	3.8%	0.6%	0.6%	1.2%	0.6%

児童生徒の携帯電話の所持率は年々増加傾向にありますが、中学2年生のこの**2年間での増加率は著しく、12.9ポイント増加**しています。

中学校への入学を機に購入することが多いようですが、**使い方のルールづくり**は家庭内でも必要です。



11月・12月の研修会

◎は、各学校1名以上の参加を願います。

◆は、学び創造アクティブプラン研究校支援研修の発表です。



研修会名	内容	日時	会場
E S D (持続可能な開発のための教育) 研修会	E S D (持続可能な社会づくりの担い手を育む教育) について、授業を通して学ぶ研修会 指導者 学校法人自由学園最高学部特任教授 成田喜一郎 授業者 北野中学校教諭 山口翠	11月 7日 (水) 13:45	北野中学校
英語サロン④	ワークショップを通して、外国語科や外国語活動の授業で使える効果的な指導方法を学ぶ研修会の4回目 指導者 教育センター指導主事、教育センターAET 他	11月 7日 (水) 15:00	教育センター
言語活動の充実を図るための国語科授業研修会	言語活動が充実し、児童生徒一人一人が言語能力を伸ばす授業の在り方を考える研修会 指導者 埼玉大学准教授 本橋幸康 授業者 若松小学校教諭 津村恭平	11月22日 (木) 13:45	若松小学校
I C T活用研修会①	小学校プログラミング教育の授業を参観し、ICT 活用の実践力を高める研修会 指導者 十文字学園女子大学教授 安達一寿 授業者 美原小学校教諭 斉藤維人	11月22日 (木) 13:50	美原小学校
I C T活用研修会②	タブレットや電子黒板等の ICT 機器を活用した授業を参観し、ICT 活用の実践力を高める研修会 指導者 十文字学園女子大学教授 安達一寿 授業者 柳瀬中学校教諭 酒井真澄	11月29日 (木) 13:45	柳瀬中学校
学び創造アクティブプラン研究校支援研修 ◆主体的で・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり研修会	児童の主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくりについての研修会 指導者 元文教大学教授 嶋野道弘 授業公開 【1年道徳、4年算数、5年国語】	11月29日 (木) 13:50	明峰小学校
学び創造アクティブプラン研究校支援研修 ◆I C Tを活用した授業づくり研修会	電子黒板やタブレット、校内無線 LAN 等、ICT を活用した授業づくりについての研修会 指導者 十文字学園女子大学准教授 川瀬基寛 授業公開 【1年算数、3年外国語活動、6年道徳、特別支援図工】	11月30日 (金) 13:55	清進小学校

教育相談

～次の時代を担うとは～

先日、ある研修会で「社会の変化に応じて求められる資質・能力」について、興味深い話がありました。社会から求められる資質・能力は、時代を追うごとに増えており、これまで求められたスキルを土台として、その上に付加されていくものだと思います。

例えば、大昔の狩猟や農耕の時代には、基本的身体能力と協働作業能力（団結力・忍耐力）が求められました。この力は、その後、どの時代にも求められるものとなり、多くのスキルを積み重ねていくための土台となっていったそうです。時を経て、約200年前の産業革命以降は、読み書き・計算が、そして、80年代以降のグローバル社会では、情報処理能力・課題解決力・創造性・道徳や公共性など、様々な資質・能力が求められるようになっていったそうです。

このように、社会が求めるスキルが多くなっている現代、生きづらさを感じる子供たちがさらに増えていくことが推察されます。子供たちの生きづらさを緩和し、健やかな成長につなげるためには、先生方の温かい支援が欠かせません。目の前の子供は、どのスキルをどの段階まで積み上げているか、正しく見立て、一人一人に応じた指導・助言を行うことで、新しい時代を担う子供たちの未来を、そっと支えていきたいものです。

(教育相談室長 大庭真紀子)